



東京2020オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

～東京2020大会を通じて地域社会にレガシーを残す～

JR東日本は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)として、また、東日本地域を主な事業エリアとする企業として、東京2020大会の円滑な運営を支えるとともに、大会開催に向けた気運を高めるさまざまな取り組みを行っています。また、これらの取り組みが2020年以降も地域社会、またJR東日本にとって持続的な「レガシー(遺産)」となるように進めていくことが、地域の皆さまからのご期待に応える企業としてのあるべき姿と考えています。

JR東日本2020Project 取組みの柱I：東京2020大会運営の支援に向けて

- 安全・安心でバリアフリーに配慮した鉄道インフラの提供
- スムーズにご利用いただくための情報提供と快適な旅客鉄道輸送サービスの提供

安全・安心でバリアフリーに配慮した鉄道インフラの提供

東京2020大会期間中にお客さまのご利用が多く見込まれる競技会場周辺の駅や、ベイエリア競技会場・空港アクセス路線への主要乗換駅において、改札口やコンコースの拡張、バリアフリー設備の拡充等の駅改良を実施しています。

駅改良事例:千駄ヶ谷駅

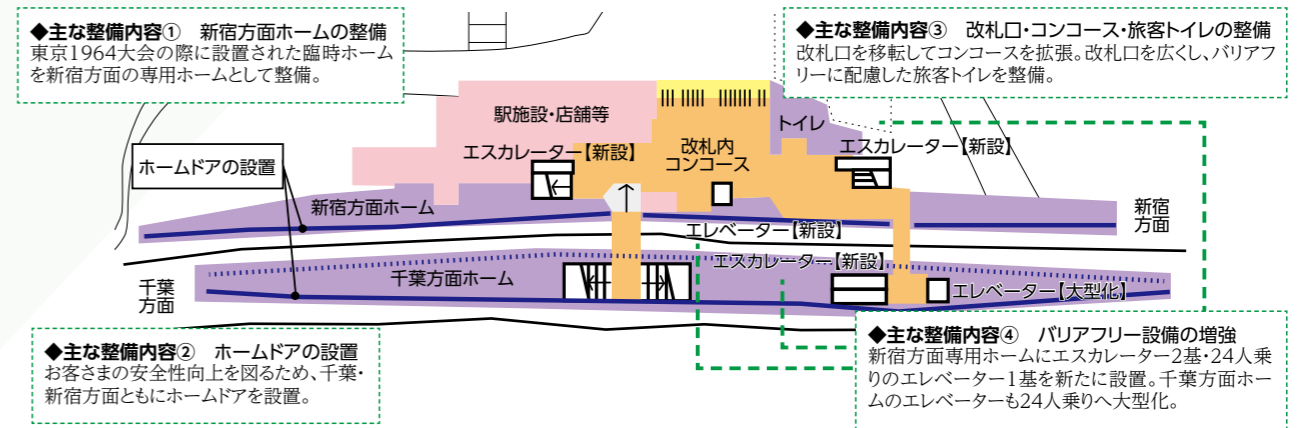
新国立競技場・東京体育館の最寄駅となる千駄ヶ谷駅では、オリンピック・パラリンピック開催前の使用開始に向けて駅改良工事を進めています。



駅周辺からの視認性に配慮したファサードデザインを採用



ホームとコンコースをつなぐ吹抜けを設け、明るく快適な空間に



JR東日本2020Project 取組みの柱II：東京2020大会開催気運の醸成をめざして

- 旅客鉄道輸送サービスを通じて東日本大震災被災地(東北)の復興に向けた観光流動活性化
- 関連イベント等による東日本エリアの地域活性化
- ターミナル駅改良による東京圏の魅力向上
- 東京2020パラリンピック開催を契機としたダイバーシティ推進
- スポーツ支援を通じた地域社会への継続的な貢献

東京2020パラリンピック開催を契機としたダイバーシティ推進

パラリンピックは、障がいのあるトップアスリートが出場するスポーツの祭典であり、人間のもつ能力の可能性に気づく機会でもあると言われています。東京2020パラリンピックを、誰もが持てる力を発揮して、ともに社会に参加する「共生社会」の実現に向けた機会と捉え、以下の取組みを行っています。

- ・パラリンピックスポーツ大会へのボランティア参加・競技観戦の実施
- ・パラリンピックスポーツ競技体験研修の実施、パラアスリートの講演会や競技体験会の実施、関連イベントへの参加等



VOICE

東京支社
新宿建築技術センター
大規模計画推進プロジェクト科



(信濃町担当) 施設技術主任
小島 諒太



(千駄ヶ谷担当) 施設係
岩崎 彩雅

私たちは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のメイン会場となる新国立競技場の玄関口である千駄ヶ谷駅・信濃町駅の改良工事を担当しています。開催期間中に駅を利用される国内外のお客さまに安全で快適な設備を提供できるよう日々関係者と協力しながら工事を進めています。

私たちが日々の業務で心がけていることは「お客さまの立場にたった設備整備」です。工事期間中もできるだけご不便をおかけすることなく安全にご利用いただけるように、また、完成後の駅も安全で使い勝手がよく、さまざまなお客さまが安心してご利用いただけるものになるよう配慮や工夫をしています。

これからも鉄道建築エンジニアとして、お客さまに感動を与え、末永く愛される駅づくりを追求していきます。



千葉支社
千葉駅 営業指導係
田中 まり子

千葉駅では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて「自分たちで今からできること」をスローガンに活動しています。

社外の方々との連携にも取り組んでおり、さまざまなパラリンピックスポーツの体験イベント等に関わってきた地元の学生団体との意見交換を実施しました。活発な意見が交わされた有意義な意見交換となり、「障がい者の気持ちを理解する」ための取組みとして、「ボッチャ」の体験イベントを共同で開催することになりました。

今後も、社内外と連携しながら、駅の集客力や情報発信力を活かし、2020年オリンピック・パラリンピックへの機運をさらに高めていきます。

※JR東日本は、東京2020オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。